



## JCNA 2006年度テーマ

いのちの旅・寄り添う看護

「わたしはいつもあなたがたと共にいる」 (マタイ28の30)

## JCNAの目的を再確認いたしましょう

## 第50回JCNA全国総会のご報告

JCNA 会長 薄島和子

JCNA 会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。夏のシーズンを迎えて、それぞれの持ち場で対応にお忙しい毎日のことと思います。JCNA の絆の中で主の霊的光に導かれながら、おひとりおひとり、看護者としての使命に深く生きておられることとお喜びいたします。

会長に任ぜられて早一年が経ってしまいました。JCNA の運営についての責任の重さをあらためて痛感しているところです。本部役員および支部役員の皆様方、また顧問神父さま方、そしてすべての会員の方々のご協力のもとに、JCNA の課題に取り組み、今年度の全国総会を終えることができました。

今回は第50回目の全国総会という節目にあたっており、JCNA について色々、調べ学ばなければならぬと思いました。すべての会員の皆さまもJCNA について、もっと知っていただけるよう希望いたしております。

およそ50年前に、教皇庁と日本の司教団のご指導のもとに、日本カトリック看護協会(Japan Catholic Nurses Association) JCNA として結成された本会が、さらに世界の CICIAMS にも参加して、全教会的に「カトリックのナース」としてお互いに結ばれる組織となっております。キリストの福音の心で養われることによって、キリストの友である病者に仕え、また社会の人々の健康としあわせに寄与するために、多くの敬愛する先輩たちのご指導のもとに、現在の私たちのこの大切な集いがあることをあらためて感じております。

JCNA のこれまでの活動や現在の動きを心静かに整理してみれば、そこに神さまの愛に抱かれ、キリストの福音の光による導きの道筋をたどることができるのではないかと思います。

このたびの全国総会のために、札幌大会誌、CICIAMS 国際会長の講演をはじめとして、2000年からの大会メッセージ集などの資料から、JCNA のヴィジョンと心を分かち合い、伝え合う機会となるよう一生懸命準備いたしました。これらのメッセージが各会員の方々の心に届きますようお願いしております。なお、全国総会の主なことはこの「JCNA 通信」を通してお知らせすることにいたしました。以下全国総会の報告をいたします。

このたび本部役員改選にあたり、Sr.沢禮子、河野小夜子、清水みどり、清水美春の四人の方々が任を受けてくださることになりました。大変な犠牲をお願いすることになりますが、本部・支部一体となり、私たちの JCNA が神さまのお恵みに相応しい会として成長していけますように、マリア様のご保護をお祈りいたします。



## 支部活動の活性化について

各支部の活動報告が総会の中で行われました。それぞれの報告資料に基づいて会長のコメントがありました。お互いの支部活動活性化のヒントになると思いますのでご参考ください。

- ・札幌 「支部活動の計画とポリシー」で、「本年度は活動内容の具体化と実施として、JCNA の本来の活動に戻ろう、ということで病者訪問と聖書・祈りの時間を組み入れ、更に、広報活動として、病者訪問・修道院訪問・聖書勉強会は、会員以外の人々学生などへ積極的な広報活動を行うことを目指している。活動のすがたを通して、広報しよう!がモットー」ということで動き出しました。
- ・仙台 支部便りの発行が8回。他に「マリア祭の開催その準備と実施」と「ミニコンサート」多くの支部で教区の中で救護班として活動しておられるようですが、こちらでもやっておられる。
- ・新潟 「カト看(JCNA)として絆と使命を深め、福音的生活のエネルギーを得る」とまとめておられる研修に、意気込みが感じられます。
- ・東京 カトリック医師会と協力して路上生活者の医療・看護活動に参加しておられます。
- ・横浜 「ともしび」が支部に一冊づつ配布されました。素晴らしい出来ばえですから支部長から見せていただけてください。「交わりの会」は、出向いて会員や信徒のナースと一緒に話し合いをもっているそうです。地域訪問でメンバーと触れ合い、メンバー以外の方とも触れ合うチャンスを作っておられます。
- ・名古屋 「全国大会開催に協力します」というのが最高の協力です。
- ・金沢 「金沢聖霊病院内でボランティアを募り、行動し、ボランティアの方々全員がナースもミサに参加する機会をつくっている」という働きかけはすぐにも出来るのではないかと思います。
- ・京都 聖体奉仕などの活動を継続して行われ、こういうことにメンバーの方が関わってくださるのはとてもいいことだと思います。
- ・大阪 顧問司祭による「黙想会」はわかりやすく熱のこもったお話しをしてくさるので、素敵で黙想会になるでしょう。他支部にも声かけがあれば参加したいですね。
- ・高松 心を打たれましたのは「施設に入院したら、入院中のために教会に来ることができない信者の方の訪問」ということで、できるようでできないこと、簡単に出来るようでもた難しいところもあって、ナースだからこそできるのではないかと、思いました。
- ・山口 さすが国際派の顧問司祭をいただける所で、「善を持って悪に勝ちなさいー平和の道具となつてー」というテーマに沿い、医療ボランティアとして実際に現地にでかけての活動もある他に、国内ではハンセン氏病とか胎児標本の問題にもかかわっておられる。更に18年度の目標が「病む人の友となろう」というのは素晴らしい目標だと思いました。
- ・福岡 各グループが、病院訪問、看護、介護の相談などきちんとやっておられる。教区の救護班活動では「JCNA」の看板をかかげてアピールしています。
- ・長崎 教区あげての「セブンスステップによる、みことばのわかちあい」を集会に活用し、みことばの中で生きるようにしておられます。
- ・大分 報告の最後に「少数であっても地道にそして愛を持って活動していくことを確認した」と記されている言葉に胸を打たれました。湯布院で長崎・山口両支部と共同の黙想会をされました。
- ・鹿児島 努力に努力を重ねていることがよくわかり、さらに奄美大島にまで働きかけ頑張っておられる。芽が出るように祈りましょう。2007年の全国大会開催地です。

- \* 本紙の冒頭の会長メッセージの通り、JCNAの目的を再確認し、その活性化のために会員相互の理解と協力関係を深めていくことを確認いたしました。
- \* 会員相互の理解を深めていく方法として、本部からの情報、支部からの情報をより強化していくようにします。早速JCNA通信No.3に全国総会の主なこと、本部役員会のおもなことを掲載してお知らせすることにいたしました。支部からも、「ニュース」や「通信」などを発行した場合、会長に送付していただくようお願いいたします。
- \* 「金沢支部」は「名古屋支部の一グループ」でしたが、独立を希望され1977年より「金沢支部」として活動してこられました。この度「金沢支部」からの申し出により「名古屋支部・金沢グループ」となることをのぞまれ、本部役員会議で認められました。(承認 2006年7月9日)
- \* CICIAMSアジア地区会長 レンタス・リー氏からCICIAMSの世界的交流のために「JCNAホームページの英語版」を求められており、検討中です。
- \* 次回本部役員会は10月1日 名古屋で全国大会の準備にあたります。

### 第9回CICIAMSアジア地区大会より 2005年11月27日～30日 香港 アパティオン市にて開催

CICIAMS国際会長 アン・フェルリンデ女史の大会での講演「CICIAMSにおいて看護師・助産師の今日的意義について考える」を翻訳して冊子にし、各会員分を全国総会にて各支部代表にお渡しいたしました。各自よくお読みいただき、またお互いに分かち合いなどにご活用いただけたらと思います。ナースとして、またカトリックナースの使命について、世界的視野から、また信仰と博識にもとづき、示唆に満ちたメッセージが込められています。以下にその中から一部を抜粋いたします。

#### IV 3. カトリックナースの価値観

##### カトリックナースは何が特別なのか?

リチャード・カッシング枢機卿(米国)のことばを引用しましょう。

「カトリックナースは信仰によります。その信仰とは頭で理解した信条にすぎないのではなく、肉と血による被造物の中に生きているものです。キリスト教信仰の素晴らしいところは、キリストの教えの中で明らかにされるだけでなく、キリストご自身の中から、その生きられた道の中から、明らかに見えてくるものなのです。キリストは神のことばを説いただけではなく、彼ご自身が肉となられたみことばであられたのです。」カトリックナースが人々を看護する時はいつでも、私たちは真に病人をキリストへと導く特別な役割を持っているのです。カトリックナースは患者にイエス・キリストを示すように準備されていなければなりません。なぜなら、ナースはすべて病人のための模範となる役割だからです。

ナースは次のように祈ります。

「イエスよ、病人が私を見るとき、彼らがあなたに気づきますように。」

毎秒、毎時、昼も夜も、病室でも病棟でも、カトリックナースとしての祈りとなるでしょう。ナースの手は救い主の手となり、神さまの指となるのです。カトリックナースは、信仰の恵みと、主の病める人々へのケアの使命を通して祝福された者となるのです。